

千葉市

精神障害者の地域移行推進に 関する取り組みについて

千葉市では・・・

- 平成27年度より措置入院者の退院に向けた支援の調整を実施している。
- 平成28年度、長期入院精神障害者地域移行総合的推進体制検証事業を実施。
- 平成29年度からは「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業」を実施中。

1 令和元年度の達成目標と現時点での進捗状況

令和元年度の達成目標	現時点での進捗状況
1. 地域移行支援プログラム等、入院患者に対する支援をさらに拡充していく	病院、事業所、地域包括支援センター、訪問看護ステーション等で、支援実践チーム（進め隊）を結成し、具体的な活動を展開中。
2. 地域住民等への広報・啓発活動を積極的に展開する	<p>病院、事業所、地域包括支援センター、訪問看護ステーション、家族会、当事者、行政等で、広報啓発チーム（広め隊）を結成。</p> <p>市内各公民館と共催で住民向け研修会を開催中。また、市内小・中・高および大学と連携して、若年層への理解促進を図るためのプロジェクトを展開中。</p>
3. ピアサポーターの活用・養成を重点的に行う	病院、事業所、地域包括支援センター、行政等で実践チーム（深め隊）を結成。ピア交流会や、養成講座を視野に入れたプレ研修会を実施（11月～）。

2 圏域の取組における強みと課題

課題	課題解決に向けた取組方針	課題・方針に対する視点別の認識(取組)	
①地域住民への理解および関心の喚起がなかなか進まない	地域住民にとって受け入れやすい内容、方法、場所等をよく検討のうえ、実施していく。	行政側	関係各機関の連携を、いかにスムーズにして、地域住民向け研修を効果的に実施するか。
		医療側	地域移行の必要性和、医療機関にとっても有益だということの認識を深めていく。
		事業者側	医療や住民側等の状況も考慮し、「少しずつ前に進めていく」という認識をもつ。
		関係機関・住民等	連携の強化など
②ピアサポーターの活用・養成	まず、代表的な活用モデルをひとつ確立し、他にも拡大・応用を図っていく。 サポーター養成についても、積極的に検討・実行していく。	行政側	他事例の収集、関係機関との連携・調整
		医療側	活用モデル、養成研修の検討ほか
		事業者側	活用モデル、養成研修の検討ほか
		関係機関・住民等	連携の強化

課題解決の達成度を測る指標	見込んでいる成果・効果など	現状値	目標値(R1末)
①地域移行支援プログラムの実施	各医療機関を核とした、実施モデルが確立する。	※前項2参照	5病院でモデル確立
②地域住民等への広報・啓発活動の実施	ニーズに合わせた、様々な活動が各区で展開される。	3回(3区)	6回(6区)
③ピアサポーターの活用、養成の実施	ピア活用モデルが確立する。	※前項2参照	養成研修開催

3 病院（医療機関）との連携状況

1. 意見交換&情報交換の場

- (1) 病院・事業所・行政等にて構成される、「千葉市精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進連携会議」を開催（6月 次回11月）
- (2) 上記の連携会議に基づき、その内容を具現化するための活動組織として「千葉市地域移行推進隊（分科会）」を結成。病院・事業所・行政が連携をとりながら、活動展開中（6月～）。



2. 具体的な活動

- (1) 長期入院患者を抱える5病院中4病院と、相談支援事業所、訪看、地域包括支援センター、行政機関が連携し、地域移行モデルを本年も実践。チームをマッチングにより2チーム結成。構築推進事業のプログラムを活用し、地域移行実践の取り組みを本年も継続実施中（6月～）。
- (2) ピアサポートの活用・養成に関する取り組みの開始した（6月～）。

4 現時点での課題・悩み

【課題・悩み】

- (1) ピアの方が分科会活動に参加している。今後養成セミナー開催や、雇用の実現に向けどのように進めていけばよいのか。
- (2) 地域住民への働きかけ方で、今年度も試行錯誤している。
- (3) 退院支援のモデル実践の進め方で、やはり試行錯誤している。

【他自治体へ聞いてみたいこと】

- (1) ピアサポーター養成研修の実施およびその後の雇用へのつなげ方。
- (2) 長期入院患者へのアプローチを、どのような内容で、どのくらいの頻度でおこなっているのか。通常地域移行支援と、この事業による地域移行支援とどのような違いがあるのか。